

2021年12月27日(月)

老球の細道647号

### 令和3年度県新人会津地区大会観戦記

会津バスケットボール協会 室井 富仁

久しぶりに無観戦試合から解放されて保護者観戦の可能な高校大会となった。多くの保護者が観戦に訪れ、選手たちも多いに燃えることができただろう。

今大会の前に、会津バスケットボール界のレジェンド(日本バスケットボールのレジェンドでもあるが)江川嘉孝さんから連絡があり、是非地区大会を観戦して会津地区の高校生に話をしたいという申し出があった。以前閉会式の際に、江川氏は会津出身で、日本バスケットボール史上、五輪において選手(1964東京五輪)とコーチ(1976モントリオール五輪)両方を経験した唯一の人物であると紹介したことがあった。だから今大会レジェンドから会津地区の選手、コーチ、保護者などに貴重な話をしてもらっても試合と同様楽しみであった。しかし、天候の異変が心配され、ご高齢でもあるので今回は千葉から会津まで来ることを断念した。私としても非常に残念だったが次回に楽しみを残しておきたい。

大会の方は天候の荒れに準じてか(?)男子の部で波乱があった。直近のリーグ戦で安定した実力を発揮していた会津高校が思わぬ不覚を取ってしまった。代わって、しばらく優勝から遠ざかっていた若松商業がスピードとアウトサイドシュート力で久しぶりに王座に返り咲いた。全員がアウトサイドシュートとスピードを兼ね備えているので県大会においても旋風を起こしてくれそうである。男子は上位5チームが紙一重の状況で、今後ちょっと気を緩めると順位が変わる下克上の様相を示している。しばらくは目が離せない。

一方女子の部は、前大会で常勝若松商業を1年生中心の会津高校が撃破したが、今大会は正真正銘の新人同士の争いとなり、拮抗する両チームの戦いは注目の一戦となった。決勝まで圧勝で勝ち上がった若商であったが、会津のインサイドもアウトサイドもバランスよく攻撃できるチームオフenseに翻弄され予想外の大差で敗退した。しかし、両チーム共県レベルで見ても相当な実力を擁しているの、男子同様県新人戦において会津地区旋風を起こしてくれるのではないだろうか。

大会において常に目指すはアップセット、ミラクルである。今大会において勝ったチームも負けたチームも次なる大会において大いに変わってほしい。もちろん良い方向にである。今年のプロ野球でもセ、パ両リーグにおいて前年最下位のチームが優勝した。その気になればプロ、アマに関係なく変われるのがスポーツである。

今年亡くなった瀬戸内寂聴は「人間は一生変わりうる存在である」と99歳まで小説を書き続けた。人は考えが変われば行動が変わる。行動が変われば態度が変わる。態度が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人間が変わる。人間が変わればバスケットボールが変わる。バスケットボールが変われば人生が変わる。

自分を変えるきっかけはいつでも、どこにでもある。今大会の結果、大失敗、病気、お正月、誕生日、入学、卒業等の人生の節目等。「大変」なことが人間を「大きく変える」。